

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 地域でくらす会 いくのさん家	理事長	井上徹	法人・事業所の特徴	法人の理念 <ul style="list-style-type: none"> ・関係性こそ、その人らしさ ・どう生きたいか、に立ち返る ・ひとりの支援は、地域を変える この理念をもとに、高齢者が自分らしく生活できるよう支援していきたい。そのために住み慣れた地域での社会生活が孤立してしまわないように信頼関係を作り、関係を深めていきたい。施設の中で支援をするだけでなく、家族や地域・医療など本人を取り巻く様々な関わりが途切れてしまわないように努力する。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 大郷いくのさん家	管理者	大坪真美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	2人	1人	2人	1人	0人	1人	1人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の改善計画は具体的かつ分かりやすい表現にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に良好だと思う。 ・取り組む姿勢は認められる。 ・項目ごとに記載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の過重労働がなければいいと思う。 ・具体的な記載が少ない。 ・職員、利用者、利用者家族はしっかりと連携がとれていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の改善計画は具体的かつ分かりやすい表現にする。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・しつらえ、環境は良い状態なので、これを維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みは概ねできている。 ・環境を維持できている 	<ul style="list-style-type: none"> ・入りやすい印象がある。 ・利用者さんのニーズに合う又はやりたい事をする等一人一人を大切にしておられるので居心地はいい所だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・しつらえ、環境は良い状態なので、これを維持する。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にある病院や施設で介護相談窓口を定期的に開設する。 ・大学の実習（まちの保健室）を通して地域の団体と協働し、つながりを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍なので活動が縮小してしまっている。 ・コロナ流行までは取り組みはできていたと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・送り迎えの時に大きな声で挨拶してくれる。 ・ほとんどの人は名前を聞いたことがあると思うが、場所までは知らないと思う。 ・相談しやすい印象がある。 ・以前公民館祭りに参加しておられた。 	コロナ終息の時は <ul style="list-style-type: none"> ・地域にある病院や施設で介護相談窓口を定期的に開設。 ・大学の実習（まちの保健室）を通して地域の団体と協働し、つながりを持つ。 コロナ禍では <ul style="list-style-type: none"> ・事業所の情報（活動内容や運営状況など）を発信する。（機関紙の発行又は地域の施設に資料を

				置かせもらうなど)
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と一緒にあって利用者さんの暮らしを支えられるように支援するために、積極的に地域の方と話したり、関わる機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問支援で利用者宅付近を散歩している。 ・コロナ禍なので活動が縮小してしまっている。 ・コロナ流行までは取り組みはできていたと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外活動（日光浴、散歩、農作業など）も日課で取り入れている。 ・コロナ流行までは行事をしたり、外出もしたり、利用者さんも自由に行動できていた。 	<p>コロナ終息の時は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と一緒にあって利用者さんの暮らしを支えられるように支援するために、積極的に地域の方と話したり、関わる機会をつくる。 <p>コロナ禍では</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の情報（店や施設などの資源や公民館での活動、サークルの稼働状況など）収集する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で利用者さんの支援や地域課題を提起して、一緒に考えてみる。 ・運営推進会議の事例検討を通して色んな人と関われるように考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を提示していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分からないことは訊ねるようにして聞いている。 ・写真などで分かりやすい。 ・事例は少ないが提示されている。 ・提示されて事例を集まって検討できないのが残念です。 ・意見を反映しようと努力している印象がある。 ・出た意見をいつまでも覚えておくことが難しい。 	<p>コロナ終息の時は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で利用者さんの支援や地域課題を提起して、一緒に考えてみる。 ・運営推進会議の事例検討を通して色んな人と関われるように考える。 <p>コロナ禍では</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書面会議での運営推進会議の在り方を考える。（リモート会議も検討する）
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・防災、避難訓練はできるだけ地元の人や運営推進会議のメンバーも誘って行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練は開催されている。 ・地元住民との訓練も確認できる。 ・委員の参加がない。 ・委員への通知がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員に向けての訓練の案内がなかった。 ・防災計画は提示されている。 ・事業所は備蓄面からも災害時は頼りにはできない。 ・頼りになると思う。 ・利用者さんの誘導や対応などで精一杯で災害時は大変だと思うので事業所は頼りにならない。 	<p>コロナ終息の時は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災、避難訓練は地元の人や運営推進会議のメンバーも誘って行う。 ・大学の実習（まちの保健室）を通して地元の団体と協働し、つながりを持つ。 ・訓練の通知を必ず委員や地域住民に出す。 <p>コロナ禍では</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真や文章で訓練中の様子を伝える。 ・訓練の通知を必ず委員や地域住民に出す。

